

後片付けをしよう

これまで毎日お世話や観察をしてきたあさがおも、冬が近付き、そろそろ後片付けです。あさがおを大切に思っている子どもたちであれば、あさがおとさようならをするのがさみしくなっていることでしょう。「これまでたくさん楽しませてくれてありがとう」という気持ちや、種子から種子への命のつながりに気付かせていきます。

ここが
ポイント

種を集めよう！

最初に観察した1粒の種、その後5粒程度の種を植えてお世話をしてきました。では、あさがおの種は何粒になるのでしょうか。初めのうちは、「先生、種ができたよ。」と、数人の子どもが見せてくれます。少しそのような発見をする子が出てきたところで、子どもたちへ封筒に種を入れておくように勧めます。封筒は、古封筒でもいいですし、画用紙からでも簡単に作れます。P33の「あるあるNG」でもふれたように、瓶やペットボトルなどは手軽ですが、種にカビが生えることもありますので、通気性の良い紙のものがいいです。たくさん集まつたら、算数の時間を使って数えてみましょう。一人で、グループで、クラス全体で数えることで、大きな数の学習にもつながります。

ここが
ポイント

葉の数を数よう！

夏には、たくさん生い茂って「葉を描くのが大変だ。」と言っていた子どもたちに、すっかり葉がなくなり、寂しくなった様子を感じさせます。「数えてみましょう。」と指示する前に、子どもたちはすつきりとした茎の様子に気が付くことでしょう。数を数えることで、どの位葉が少なくなったのかを具体的に捉えることができます。あさがお以外にも、自分たちの衣服の様子や、周りの畑の様子、風や空気の暖かさの違いなどにも目を向けることで、秋を感じさせます。



Active

秋を探す単元で、「自分の秋の宝箱」を作り、木の実やドライフラワーなどを集めておきます。あさがおのつるで作ったリースに飾るもの使うと、大人っぽい仕上がりになります。



気付き！

つるが上手に解けた時には、身長と比べてみるとアサガオの成長がよくわかります。床のタイルなどの上に置くと、いくつ分で数えることができ、算数の長さの学習に繋げることができます。

あるある NG!

「さあ、今日は鉢を片付けますよ！」と言って、根や解けない絡まった蔓を、ハサミでパチンパチンときってしまうことはありませんか？一つ一つ、子どもたちには思いのこもったあさがおです。最後まで大切に扱いたいものです。